

わたしたちのまち タイ シラチャ

シラチャ日本人学校小学部
社会科副読本

ประเทศไทย
ชลบุรี
ศรีราชา



(2) JICAの援助を受けて介護に取り組むセーンスック町

JICA (ジャイカ) : 国際協力機構 (こくさいきょうりょくきこう)

日本の政府による開発途上国への支援プロジェクトを行う実施機関として、途上国のまちや経済、社会の発展をサポートする国際協力を行っています。



シラチャ市から北へ約17 kmのところ、セーンスック (Sean Suk) 町があります。その町では、長野県佐久市や佐久大学の協力をえて、高れい者 (60歳以上のお年寄り) を介護や看護できる人材の育成に取り組んでいます。

長野県は、住民が集団で健康診断を行ったり住民に

対して健康教育を行ったりしてきました。また、自宅で寝たきりの高れい者に対して、訪問して診療したり介護や看護したりする取り組みを長年行っていました。その結果、長野県は日本で一番健康で長生きする県となりました。

介護や看護・・・高れい者や病人のお世話をしたり手当てをしたりすること。
診療・・・医師が患者を診察し、治療すること。

セーンスック町では、2014年度の人口の100人に10人は、高れい者です。その後、高れい者の数はどんどんふえ続け、2030年には100人のうち25人までふえていくものと思われます。

タイでも時代と共に今までのように、子どもが自分の親などの高れい者のめんどうをみるのがむずかしくなってきました。

そのため、最近の高れい者だけで生活する家庭や高れい者がひとりで生活する人、病気にかかる人がふえてきました。セーンスック町でも同じようなことが見られます。

そこで、セーンスック町では佐久市や佐久大学、JICAからの協力を受けて、次のことに取り組むことにしました。

- 1 高れい者が自分の家で介護^{かいご}や看護^{かんご}が受けることができる仕組みをセーンスック町でつくる。
- 2 佐久市がおこなってきた方法を取り入れて、介護や看護ができる人をふやす。



セーンスック町では佐久市や佐久大学からかんごの方法を学ぶために2016年から日本に何回か人を派遣^{はけん}しました。そこで介護や看護の仕方を学んだ人は50名をこえました。この人たちが中心となって、セーンスック町の高れい者およそ850名以上の人々が、介護や看護を受けることができるようになりした。



介護や看護の仕方を学ぶセーンスック町の人たち



セーンスック町でJICAの支援を受けて活動している人の話 ブラパ大学看護学部長 ポーンチャーイ・ジューンラメートさん

佐久大学で学んだことをセーンスック町で取り入れて、介護や看護に取り組みました。その結果、高れい者の方々の症状がよくなるとともに心や気持ちもよくなりました。日本で学んだことを活用して、セーンスック町の高れい者の正しい介護や看護を行うことができました。またブラパ大学の医師や看護師などにとってもよい勉強の場となりました。現在も、佐久大学と連携して行う取り組みを続けています。これからも交流を続けて、もっとよい研究をいっしょに行っていきたいと思います。



日本で介護や看護の仕方を学んだ人たちの感想

音楽セラピーという方法を学びました。高れい者の家を訪問して在宅でケアするときに使ってみたいと思いました。またリハビリテーションの学習では、肩や腕を動かす技術は大変役にたちました。

日本とタイのケアのちがいに気づきました。日本では自宅を訪問して介護や看護する時やりハビリする時は、看護師および介助者は患者が自分でできるまで待っていました。タイでは反対です。患者は、介護や看護をする人が来て全てをやってくれるのを待っています。また介護や看護をする人もそのように介護や看護しています。これからは、患者が自分自身でできることは自分で行ってもらい、介護や看護する人は待つことを広めたいと思いました。

日本で介護や看護の仕方を学んだ人たちの感想

- 音楽セラピーという方法を学びました。高れい者の家を訪問して在宅でケアするときに使ってみたいと思いました。またリハビリテーションの学習では、かたやうでを動かす技術は大変役にたちました。